

成功体験を増やすことで、自信を持たせる。④我慢や努力を続ける忍耐力を身につけられるようになる。そして、⑤少し難しい課題に挑戦できるような頑張り屋さんになれる。これは、運動経験

個人的に提唱しているほどである。私が子ども

の素養がぎゅぎゅ詰まっているのである。

ど。この世代の中学、高校時代の野球部は、どちらかと言うと「切り捨て主義」。部員数も多く、ケガをすれば終わり。中学↓高校↓大学と野球を続けるにあたり、どこかでレギュラーを外されてもそこで終わり。それぞれの段階で、エース・四番・主将」という人材のみが、次へのステップを与えられていた時代。その意味では、強い者しか生き残れない弱肉強食の世界を経験。自然と生き抜くための想像力や競争力が身についたように思う。

が自己形成に及ぼす一例。また、子どものやる気を高めるには、十回チャレンジしたら半分程度できる課題を与え、七〜八回（七〇〜八〇％）できるようなったら、新しい課題を与える。これは、逆U字曲線理論と呼ばれるスポーツ心理学を駆使した指導方法だが、確かに効果あり。子どもの目が輝き、集中力マックス状態。間違いないのである。私は、このようなスポーツ心理学に基づいた指導を通じて、野球好きの子どもたちを徐々に増やしていくしかないと感じる。

の頃は、野球は頭の悪い奴がするスポーツ」という風潮がまかり通っていたが、今や野球をやると、頭がよくなる」という時代。野球に関心のない保護者や子どもを巻き込むには打ってつけの謳い文句となっている。

【新春特集】日本の将来を語る

次世代のリーダーを育てる



ジャイアンツアカデミー・ヘッドコーチ

倉俣 徹



とある。卒業後、野球部監督として指導している。現在は、ジャイアンツアカデミーのヘッドコーチとして指導している。1962年生まれ。東京芸大卒業。野球部監督として指導している。現在は、ジャイアンツアカデミーのヘッドコーチとして指導している。

年からは四年連続で中学生の世界大会にコーチングスタッフとして参加。世界の十五歳の野球レベルを肌で感じ、日本の中学生にも還元できていると感じる。

私たちが迎える団塊世代の方たちは三百万人は六十歳を迎える団塊世代の方たちは三百万人は

私は、教員養成大学を出て、一度は高校教師になったものの、指導者として野球で飯が食いたい」という思いを断ち切れず、四年の勤務を経て退職。その後、米国の大学院に三年間留学。現在は巨人軍というプロ野球球団で二十年目を迎えている。その間、通訳、トレーニングコーチ等の現場勤務を経て、プロ野球界初の野球スクール「ジャイアンツアカデミー」を立ち上げ、九年目を迎えるようになっている。業務内容は、幼児から小学生までの指導プログラムの作成、実際の野球指導、及び担当コーチの指導への助言である。

二〇〇六年四月、生徒数三百人でスタートした「ジャイアンツアカデミー」は、二〇一二年現在、都内で十五校、一五〇〇人に膨らみ、二〇一三年四月には、さらに五校増え、二千人規模になる。数が増えればよいというものではないが、①プロ野球を引退した選手の雇用創出、②大学まで野球を続け、指導者志望の学生に対するプロ球団での研鑽場の提供。また、幼児や小学生が、③どんどん「ボール感覚」や「運動神経」がよくなっている、④野球を通じて友達が増え、ルールを守れるように成長している、⑤保護者からの「基本を身につけさせたい」という期待への対応。こういう事例に毎日触れていると、野球を通じて社会貢献できているのかな？」と感じることが出来る。